

## 平成 22 年度事業状況報告

府域の良好な自然環境の保全及び市街地の緑化を推進し、みどり豊かで快適な環境づくりに寄与するため、次の事業を行った。とくに、生物多様性条約に基づく活動を展開するものとして、2008年に韓国で開催されたラムサール条約第10回会議で決議採択された「湿地システムとしての水田の生物多様性」を支持する活動を積極的に取り入れた。これは、生物多様性条約とラムサール条約をつなげる重要な活動として、当協会としても20年間の実績をもとに、地域づくりもふまえ、新たな活動領域へと進むことを目的に実施していくものである。

### ・府域に残された良好な自然環境や里山等の保全

#### 1 貴重な自然環境の保全

府域に残された貴重な自然環境は生物多様性の観点からも重要であり、その保全と復元を図るため、当協会の登録ボランティア「みどりすと」をはじめ、多くの府民、企業社員のボランティアの参加や大阪府立大学等の研究機関の協力を得て次の活動を行った。

- ・貴重な動植物を育む自然環境の保全に関する活動 和泉葛城山ブナ林ほか 5カ所
- ・貴重な社寺林（大阪府自然環境保全地域）の保全契約 妙見山ほか 4カ所

#### (1) 和泉葛城山ブナ林保全整備事業

国指定天然記念物である和泉葛城山のブナ林は、日本のブナ分布の南限圏にあり、標高も低いために環境変化の影響を受けやすく、大阪府が取得した周辺森林（バッファゾーン）との一体的な保全が必要である。

しかし、近年の急激な環境の変化や人為的な活動の影響を受け、ブナ林の衰退が懸念されている。

そのため、学識経験者等で構成する「和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会」の助言を得ながら、大阪府及び地元岸和田市、貝塚市と協力し、ブナ林が天然林としての生態系を維持できるようバッファゾーンのブナ林の保全・整備に取り組んだ。

また、ボランティア団体「ブナ愛樹クラブ」や企業の社員ボランティアなど、広く府民の協力を得ながら保全・整備活動を実施した。その他、他地域のブナ林における現況についての情報交換等も行った。

(保全面積 56 ha)

- ・ブナ苗木の養成（岸和田市塔原） 平成18年秋に採取した種子より  
約 250 本
- ・環境測定（温度、湿度、土壌水分含有量、光量） 平成20年より実施  
6 地点
- ・ブナ林のDNA調査
- ・ブナ林植生調査（とくに、ブナ枯死木の確認及び実生発生による追加ブナ、  
イヌブナについて）
- ・ブナ花芽調査、結実調査
- ・「ブナ愛樹クラブ」等による周辺森林の整備 17回 参加 193 名
- ・企業ボランティアによる下刈り（10月23日(土)） 1回 参加 64 名
- ・巡視管理等 巡視員 4名 延べ 42 日
- ・ブナ林自然観察ハイキング（10月30日(土)） 雨天中止
- ・ブナ林クリーンキャンペーン（11月14日(日)） 1回 参加 102 名
- ・情報交換会及び現地視察（10月4日(月)） 9 名  
独立行政法人 森林総合研究所より4名の研究員が当ブナ林の現地  
視察と太平洋側ブナ林についての情報交換

## （2）三草山ゼフィルスの森保全整備事業（大阪府緑地環境保全地域）

能勢町三草山は、日本に生息するミドリシジミ類の蝶（ゼフィルス）25種のうち10種が生息し、なかでも、ヒロオビミドリシジミ（大阪府レッドデータブック（以下、大阪府RDB）：絶滅危惧 類）は日本の分布の東限になっていることから、当協会が生息主要区域に地上権を設定し、ヒロオビミドリシジミの幼虫の餌であるナラガシワをはじめとする落葉広葉樹林の保全等のための事業を実施した。

また、萌芽更新による雑木林の再生・維持管理に加えて、休耕田を活用したナラガシワの苗木づくりを実施した。

（保全面積 14 ha）

- ・外来生物の調査（三草山及びその周辺地域での外来生物による森林環境への影響の検証）  
大阪府立大学等の研究と連携
- ・不法採取等の巡視（地元ボランティア「城好会」により実施） 延べ 29 日
- ・ボランティアによる笹の刈り払い、除伐整理、落ち葉掻き、苗畑及び萌芽更新地の管理 4回 参加 79 名
- ・ゼフィルス観察会の開催（6月20日(日)） 1回 参加 28 名

### (3) 能勢町地黄湿地の保全(大阪府緑地環境保全地域)

トキソウ(大阪府RDB:絶滅危惧 類)、サギソウ(大阪府RDB:絶滅危惧 類)、モウセンゴケ(大阪府RDB:準絶滅危惧)等の希少植物やモリアオガエル(大阪府RDB:準絶滅危惧)や水生昆虫等の貴重な野生動植物が生息する能勢町地黄の湧水湿地の維持管理のための保全作業を行った。

ボランティアの協力を得て、陸地化を促進するススキなどの掘りとりや周辺森林の伐採、観察用木道の補修などの作業を行った。また、平成20年から実施している地下水位の変動を継続して観測した。

また、周辺地域でのハッチョウトンボの発生地は確認できなかったが、サギソウなど希少な湿地性植物が生育する湿地環境を発見した。

(保全面積 18 ha)

- ・地下水位の測定
- ・特定外来生物ウシガエルの監視 確認なし
- ・モリアオガエルの卵塊調査 約 150 個
- ・トキソウ開花株数 約 80 株
- ・ボランティアによる侵入した樹木やススキの掘り取りや湿地周辺森林の伐採整理等による湿地環境の維持と復元、観察用木道の修復  
(サギソウの観察会含む) 6回 参加 43名

### (4) 和泉市信太山惣ケ池湿地の保全

市街地に隣接しているにもかかわらず、多様な生態系を保っている信太山惣ケ池の湿地において、保全管理マニュアルに基づき、ボランティアによるササ刈りや帰化植物の抜き取りなどの湿地の管理作業とともに、カスミサンショウウオ(大阪府RDB:絶滅危惧 類)やコバナノワレモコウ(大阪府RDB:絶滅危惧 類)などの希少動植物の調査も実施した。

シソクサ(大阪府RDB:絶滅)、アギナシ(大阪府RDB:絶滅危惧 類)、コモウセンゴケ(大阪府RDB:準絶滅危惧)などの希少植物は着実に増殖してきた。

(保全面積 3 ha)

- ・乾燥化につながるネザサの刈り払い、帰化植物(アメリカセンダングサやメリケンカルカヤなど)の除去、水路の整備、立入防止柵の補修等  
5回 参加 73名
- ・絶滅したとされていたシソクサ調査(10月5日(火)) 1回 参加 7名  
約 30株

- ・カスミサンショウウオ産卵調査（3月6日(日)） 1回 参加 13名  
（本来1対になっているが、バラバラに外れていたものがあったため）  
10 さや

### （5）八尾水辺エコアップ活動

希少な淡水魚ニッポンバラタナゴ（大阪府RDB：絶滅危惧 類）の日本純血種を大阪府内での絶滅を回避するため、野池の環境を整備して、ニッポンバラタナゴの産卵宿主となるドブガイとあわせて増殖に取り組んだ。

継続的にため池への水の安定確保が必要であるが、ニッポンバラタナゴは順調に増殖しており、ドブガイの繁殖もかなり確認できた。

（保全池面積 0.1 ha）

- ・ヘドロの除去、ドブガイの生育環境の改善のための山土の補給、水路の維持管理、  
ため池周囲の草刈り 13回 参加 92名
- ・ドビ流しによる池の浄化作業と生きもの調査（11月3日(水・祝)）  
1回 参加 16名  
1万尾以上に増加

### （6）大和葛城山カタクリ群生地の保全

府内で唯一、カタクリの群落とともにギフチョウ（大阪府RDB：絶滅危惧 類）が生息している。しかし、周辺からのササ等の侵入を防ぐための刈り払いや立入防止柵の改修等の環境整備を実施した。

近年、ギフチョウの採集圧がその生息数にも影響を及ぼすほどである。そのため、ギフチョウの産卵調査やその餌植物のミヤコアオイの調査などについても大阪府立大学や日本チョウ類保全協会などとも協力しながら実施した。

ボランティア団体「大和葛城山の自然を大切に作る会」が主体となって、奈良県側（とくに橿原・吐田地区財産区）での保全作業なども積極的に行うとともに、土地所有者の協力を得ながら、採集者の立入制限をかけるために立入制限柵（1km）や看板（8基）の設置を行うなど、奈良県との希少動植物の保護としての協働事業も実施した。また、御所市の協力のもと、新たにカタクリの観察会や親子の自然観察会も実施し、地元の理解者の拡大を図った。

このような事業成果をシンポジウム（日本チョウ類保全協会との共催）を開催して公表した。

（保全面積 3 ha）

- ・ボランティアによるササ類等の刈り払い、防火帯の草刈り、林内整理、調査及び保全パトロール（カタクリの分布、ギフチョウ産卵調査）等  
55回 参加 444名
- ・日本チョウ類保全協会と合同でのギフチョウ卵調査（3年目）  
（5月28日(金)～29日(土)） 参加 のべ 26名
- ・カタクリ観察会の開催（4月21日(水)及び25日(日)） 2回 参加 73名
- ・大和葛城山親子昆虫教室（7月25日(日)～26日(月)、8月4日(水)）  
2回 参加 のべ 約150名
- ・第5回全国チョウ類保全シンポジウム「ギフチョウ」（御所市）を共催  
（1月22日(土)） 参加 200名

### （7）大阪府自然環境保全地域（社寺の貴重な自然林）の保全事業

社寺に残るすぐれた自然林は、大阪の潜在的な自然植生を知る上で重要で、地域の極相林の特色をあらわしている。そのため、大阪府自然環境保全地域に指定されている以下の5カ所について、管理者との保全契約を締結し、その社寺林の維持管理を支援した。

（保全面積 38 ha）

- |  |       |        |
|--|-------|--------|
| ・妙見山自然環境保全地域                           | （能勢町  | 10 ha） |
| ・本山寺自然環境保全地域                           | （高槻市  | 14 ha） |
| ・若山神社自然環境保全地域                          | （島本町  | 11 ha） |
| ・美具 <small>みくくる</small> 久留御魂神社自然環境保全地域 | （富田林市 | 2 ha）  |
| ・意賀美 <small>おがみ</small> 神社自然環境保全地域     | （岸和田市 | 1 ha）  |

## 2 里山の保全

かつて里山は人々の暮らしを支える森として利用されてきたが、燃料革命などの生活様式の変化等により手入れされなくなった雑木林や人工林を再生するため、(社)国土緑化推進機構からの助成や企業からの寄付などを受けて、ボランティアによる間伐、下刈り、つる切り等の森林保育作業を8カ所で行った。

里山保全活動を地域に根づいた持続性のある活動とするため、各活動地でボランティア団体を組織して自主的な活動を進めた。

その結果、各地域の特色として、炭焼きや薪づくりなど、木質バイオマスとしての有効活用を促進し、本来の里山管理による再生可能エネルギーとして里山の持続

可能な利用が図られるようになってきた。

また、各活動地を企業によるCSR活動のフィールドとして活用するため、それぞれのボランティア団体が指導者となってその活動を受け入れた。

### (1) 各活動地のテーマ及び実施状況

能勢町歌垣の森 (放置された栗林の再生とギフチョウの保護: 2 ha)

「能勢のギフチョウを守る会」 12回 参加 50名

箕面市外院の森 (都市近郊の放置林の整備・再生: 3 ha)

「外院の杜クラブ」 11回 参加 130名

茨木市車作の森 (多様な動植物を育む里山の再生: 40ha)

「車作里山倶楽部」 35回 参加 560名

島本町大沢の森、水無瀬水源の森等 (山村と都市の交流: 18 ha)

「島本森のクラブ」 35回 参加 533名

和泉の国の森づくり (地域と都市住民の協働による森づくり: 7ha)

11回 参加 180名

貝塚市蕎原の森 (台風被害森林の復旧: 11ha)

9回 参加 217名

泉佐野市いずみの森 (ボランティアによる森づくり西日本拠点: 31ha)

「いずみの森ボランティアの会」 ( (社)国土緑化推進機構から助成)

33回 参加 886名

泉南市堀河の森 (企業ボランティアによる森づくり: 11ha)

5回 参加 237名

### (2) 企業によるCSR活動の受け入れ

・三草山ゼフィルスの森 2件 (京セラミタ株式会社、三菱東京UFJ銀行)

生物多様性保全活動として、ナラガシワの稚苗の保育  
作業等に協力 計 参加 70名

・倉垣の森 1件 (株式会社コミュニューチャ)

生物多様性保全活動として、キマダラルリツバメの生  
息地であるクリ林の下草刈り等に協力 参加 9名

・車作の森 2件 (株式会社日立ハイテクノロジーズ、株式会社荏原製作所)

里山保全活動として、雑木林の伐採整理や植栽地の下草刈り等  
に協力 計 参加 15名

- ・大沢の森 1件(大阪北生活協同組合(現コープこうべ大阪北地区))  
里山保全活動として、竹林の伐採整理等に協力 参加 33名
- ・和泉葛城山ブナ林 1件(株式会社損害保険ジャパン)  
生物多様性保全として、ブナ林周辺の雑木林の伐採整理等に協力 参加 55名
- ・蕎原の森 3件(株式会社アサヒディード、株式会社コミュニューチャ、  
関西電力労働組合大阪南地区本部)  
里山保全活動として、人工林の間伐及び雑木林の伐採整理等に協力 計 参加 195名
- ・いずみの森 8件(近畿大阪銀行、コンドール株式会社、ダイキン工業株式会社、鶴賀電気株式会社、日興コーディアル証券、富士テレコム株式会社、三菱UFJ信託、マルイグループ)  
里山保全活動として、雑木林の伐採整理、枯れ松の処理、植栽地の下刈り、植樹、作業路づくり、薪づくり等に協力 計 参加 283名
- ・堀河の森 1件(株式会社NTTドコモ関西支社)  
企業の森の里山保全活動として、雑木林の伐採整理及び植栽地の下草刈り等に協力 計 参加 212名

### 3 生物多様性の保全

日本でのCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)開催を契機に、生物との共生にも観点をおいた里山づくりを進め、ボランティアや地元学校等とともに身近な生物相の調査などを行った。

新たに、遊休農地を活用し、地域と環境を蘇らせて、生き物との「つながり」を尊重した価値の高い恵みに満ちた生態系を再生し、地域の自然に根ざした「人と生き物にやさしい農業」あるいは「生物多様性農業」を試みた。これは、水田とその周辺の生態系の生物多様性保全上の重要性をアジアから世界に向けて発信しようとするラムサール条約第10回締約国会議での議決に関連した事業として位置づけている。こうしたことも活用しながら生物多様性への認識を広く深めていただくことと、その保全上重要な里山の保全を一層進めていくものである。

#### 生きもの調査

【既存の活動地】(再掲のものを含む)

- ・歌垣の森ギフチョウの調査（成虫、卵） 4月17日、4月29日
- ・大和葛城山ギフチョウの調査（成虫、卵） 4月17日、5月28-29日
- ・地黄湿地モリアオガエルの調査（卵塊） 6月19日
- ・倉垣の森キマダラルリツバメの調査（成虫及び吸蜜植物） 6月19日
- ・信太山惣ヶ池湿地シソクサ調査 10月5日
- ・八尾ニッポンバラタナゴの調査 11月3日
- ・三草山オオムラサキの調査（越冬幼虫） 3月2日
- ・信太山惣ヶ池湿地カスミサンショウウオ産卵調査 3月6日

#### モデル地区の活動

- ・蝶の舞うまちづくり

能勢町倉垣の森

生息地の一部を学校林的な位置づけを行い、キマダラルリツバメ（大阪府RDB：絶滅危惧 類）の保護と生き物調べなどを地元の小学校のクラブ活動（顧問）として実施した。

小学校クラブ活動 4月から毎月1回実施  
 保全活動 2回 参加 18名

- ・生物多様性農業への理解促進

能勢町神山遊休農地

稲作水系の水生生物の多様性（タガメの復活）の回復  
 （「総合学習」での体験や「食育」への取り組み）  
 復活した水田面積（1,298m<sup>2</sup>）

保全活動 18回 参加 221名

関西大学第一中学校との連携で各学期に各学年約260名が参加  
 3回 参加 853名

## . ボランティアの育成

非日常的な体験や自然とのふれあいを通じ、みどりや自然への関心を高め、ボランティアとして自然との関わりを日常的な生活の一部として活動ができるボランティアの養成を行った。なかでも森林保全や里山の循環的利用などの基礎的な技術と知識を習得できる講座を開設し、ボランティアの人材確保及び育成を図った。今年度から新たな講座を開設し、より広く森林に関わる機会を提供しボランティアの拡充を図ることとした。

一方、緑化行事等においては、自然素材を使ったクラフトの指導者や観察会等の講師を派遣した。

次代を担うボランティアの育成のために、学校教育との連携を図り、総合学習時の森林体験学習の開催などを通じて、当協会が進めている保全活動への理解と参加を促すとともに、その活動地の活用を図った。また、大阪府緑の少年団の育成にも努めた。

その他、大学生や大学院生を対象とした企業が助成するインターン制度により学生を受け入れた。

### 1 ボランティアの養成

#### (1) ボランティア養成講座の開催

##### ・里山ボランティア養成講座 ～月に一度は里山生活～

美しい里山景観が残る能勢町において、地元ボランティアの協力のもと、伝統的な文化や暮らしにつながる里山と人々のかわりについて学ぶ「里山ボランティア養成講座」を開催し、新たなボランティアの発掘とその育成を行った。

とくに、修了後は当協会の生物多様性の保全活動への参加につながっている。

5月開講（年8回のうち7回実施） 受講者 のべ 216名

##### ・森人塾（第1期）～フォレスターカレッジ～

大阪森林インストラクター会の協力のもと、今年度から新たに、森と人をつなげるインタープリターの養成あるいは森林と人の関わりに対してより広い視野でもって活動に参加できる人材の育成と発掘のための講座を開設した。

既存のボランティアと次世代をつなげる段階的な位置づけで、当協会の保全活動はもちろんのこと、各地域での独自の活動への参画を促すことができた。

6月開講（年12回） 受講者 のべ 242名

## (2) ボランティア交流

里山保全活動に関連した他団体との交流会を開催し、ボランティア間での交流を通じて、知識の共有や技術の向上を図った。研修会、人工林伐採技術の講習、林業器械の講習、伐採した樹木が活用としての薪づくりなどを実施した。

計 2 回実施

参加者 のべ 45 名

## 2 ボランティアの派遣

良好な自然環境や里山の保全及び緑化の推進を図るため、各フィールドでの継続的なボランティア活動の実施、あるいは、緑化行事などでの木工クラフトの指導者として登録ボランティアを派遣した。

ボランティア活動に必要な用具や資材を整備すると共に、活動時の事故対策として、傷害賠償保険に加入した。

- ・みどりすと活動 167 件 2,723 人
- ・クラフト指導者の派遣(6 市町村) 9 件 派遣数 30 人
- ・観察会講師の派遣(1 市) 1 件 派遣数 6 名

## 3 青少年緑化活動推進事業

緑とふれあう体験活動を通じて、緑を守り育てる心豊かな人間性をもつ青少年を育成するために、大阪府緑の少年団連盟の交流集会や学校等の教育機関からの依頼を受けて、講義や自然の中での体験学習等を行った。

- ・大阪府緑の少年団連盟の実施事業

緑の少年団全国大会への参加 日程:平成22年7月28日(水)~7月30日(金)

場所:青森県

参加:3名

大阪府緑の少年団交流集会

日程:平成22年10月31日(日)

場所:神山地区遊休農地(能勢町)

参加:113名

子どもゆめ基金助成事業

(独立行政法人 国立青少年教育振興機構)

- ・学校等教育機関への協力

小学校(3校:能勢町立歌垣小学校、能勢町立岐尼小学校、能勢町立田尻小学校)

中学校(1校:関西大学第一中学校)

高等学校(1校:大阪府立伯太高校)

## 普及啓発事業

自然環境の保全と緑化の推進についての認識を深め、トラスト運動への積極的な参加を促進するため、当協会事業地を活用した自然観察会の開催などを行った。

その他、当協会の活動を広めるために各種シンポジウムの開催や普及啓発資材の作成などを行った。

### 1 普及啓発のためのイベントの開催

自然観察会などの実施により自然に触れ、楽しみ、学ぶ体験を通じて自然環境の大切さを啓発した。また、当協会事業の理解及び森林保全活動への市民の参加と支援を求めた。（再掲含む）

・大和葛城山カタクリ観察会	平成22年 4月21日(水)	23名
	平成22年 4月25日(日)	50名
・三草山タガメの田づくり	平成22年 5月15日(土)	19名
・地黄湿地トキソウ観察会	平成22年 6月19日(土)	10名
・倉垣キマダラルリツバメ成虫観察会	平成22年 6月19日(土)	10名
・三草山ゼフィルス観察会	平成22年 6月20日(日)	28名
・地黄湿地サギソウ観察会	平成22年 8月7日(土)	7名
・車作の森キツネノカミソリ観察会	平成22年 8月14日(土)	49名
・いずみの森自然体験	平成22年 9月26日(土)	220名
・八尾ドビ流しによる生きもの調査	平成22年 11月3日(水・祝)	16名
・妙見山ブナ林自然観察ハイキング	平成22年 11月20日(土)	14名
・フクジュソウ自生地と国の登録有形文化財「藤岡家住宅」を訪ねて	平成23年 2月20日(日)	31名

その他、緑の募金運動を通じて緑化啓発や自然環境・里山の保全等について啓発活動を行った。

### 2 シンポジウムの開催等

大阪府内で貴重な動植物を保護してきたこれまでの活動を広く周知していただくために、各団体と協力しながら活動成果を公表するシンポジウムの開催や講演を行った。（再掲含む）

- ・ 能勢環境フォーラム
  - 「能勢の自然の豊かさ」（講演）
  - 日程：平成22年11月23日（火・祝）
  - 場所：浄るりシアター
  - 参加：約 100 名
- ・ 第5回 全国チョウ類保全シンポジウム
  - 「ギフチョウ ～金剛葛城山系の自然を考える～」
  - 日程：平成23年 1月22日（土）
  - 場所：アザレアホール（御所市）
  - 参加：約 200 名
  - 日本チョウ類保全協会との共催

### 3 情報誌等の発行

当協会会員をはじめ行政機関、府民に協会の活動状況や自然に関する情報を提供するため、会報「みどりのトラスト」を年3回（8，12，4月）発行した。

生物多様性保全活動のPRグッズとして、地黄湿地の生きものをモチーフにした「エコポーチ」を作成した。

ホームページを充実させることにより、効果的な情報提供やCSR活動支援に対する取り組みなどの充実を図った。

・ 会報（第66号～68号）	計 29,000 部
・ グッズ（エコポーチ）	500 部

### 4 会員の募集

当協会の保全活動や緑化関係各種イベント、会報・パンフレットの配付等を通じて会員の拡大を図った。特に、CSR活動サポート用のパンフレットを活用し、企業や団体の法人会員の加入をよびかけた。

・ 新規会員登録者数	個人 51 人、法人 1 団体
（平成22年度会員数	個人 761 人、法人 36 団体）

## 5 専門委員会の開催

当協会の事業実施に当たり、専門的知識を要する事項について助言を得るために次の専門委員会を開催した。

・普及啓発委員会 3回

会報「みどりのトラスト」の編集及び緑の募金、その他、広報及び普及啓発活動について協議、検討

## . 緑の募金運動

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき「緑の募金」運動を積極的に展開し、市街地の緑化の推進、森林の整備、緑づくりの活動支援等に努めた。

「緑の募金」運動を進めるにあたり、幅広い参加による府民運動とするため、青少年団体、経済団体、企業、市民団体の協力を得て実施した。

### 1 緑の募金運動の推進

#### (1) 募金資材の整備

募金運動を実施するため、緑の羽根、募金箱、PR ポスターなどの資材を作成し、募金実施団体に配布した。

- ・ 緑の羽根 660,000 本
- ・ 募金バッジ 秋季(H22 用) : 「ダンコウバイ」ピンバッジ 5,000 個  
春季(H23 用) : 「コバノミツバツツジ」ピンバッジ 20,000 個
- ・ 募金箱、タスキ、のぼり、ポスター、パンフレット等

#### (2) 募金活動の推進

##### (ア) 集中取り組み期間

(春季) 平成 22 年 3 月 1 日から 5 月 31 日まで

(秋季) 平成 22 年 9 月 1 日から 10 月 31 日まで

##### (イ) 募金の実施

- ・ 街頭募金、学校募金、職場募金、家庭募金、企業募金等により行った。
- ・ ボーイスカウト、ガールスカウト、緑の少年団などの青少年団体や地域女性団体などによる街頭募金をはじめとし、企業や店舗の他、公共施設等に募金箱を設置して実施した。

##### (ウ) 募金運動の PR

- ・ 各報道機関に「緑の募金」運動の周知・協力を要請した。
- ・ 4 月には NHK ニュース番組においてアナウンサーに緑の羽根着用の協力を得た。
- ・ 大阪府広報、市町村広報での PR 協力企業の店舗などでポスター掲示を行うとともに、街頭募金キャンペーンを実施した。

<街頭募金運動キャンペーン>》

協力団体の参加を得てトラスト協会主催の街頭募金キャンペーンを実施した。

区分	実施日	場 所	協力団体
春季	9 / 28	なんばパークス 2階フロア	大阪市地域女性団体協議会（11名） トラスト協会（3名）
秋季	10 / 17	同上	緑の少年団いちょう（11名） トラスト協会（4名）

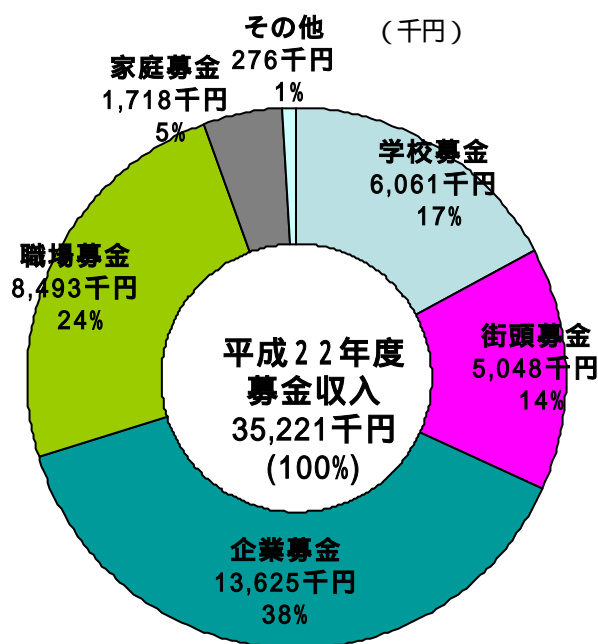
(エ) その他

森林の市及び市町村緑化行事やその他団体緑化行事に出向き、募金をよびかけた。

(3) 募金実績

平成 22 年度の募金総額は 35,221,749 円（1,171 件）で、平成 21 年度に比べ、金額で 7,737,792 円の増加、件数で 103 件の減少となった。

【平成 22 年度種類別募金額】



【平成 20～22 年度種類別募金額】

(単位 千円)

	H20 年	H21 年	H22 年
学校募金	7,865	6,914	6,061
街頭募金	6,419	5,551	5,048
企業募金	6,484	4,073	13,625
職場募金	9,461	7,559	8,493
家庭募金	1,904	1,796	1,718
その他	594	445	276
<b>合計</b>	<b>32,727</b>	<b>26,338</b>	<b>35,221</b>
件数	1,345	1,274	1,171

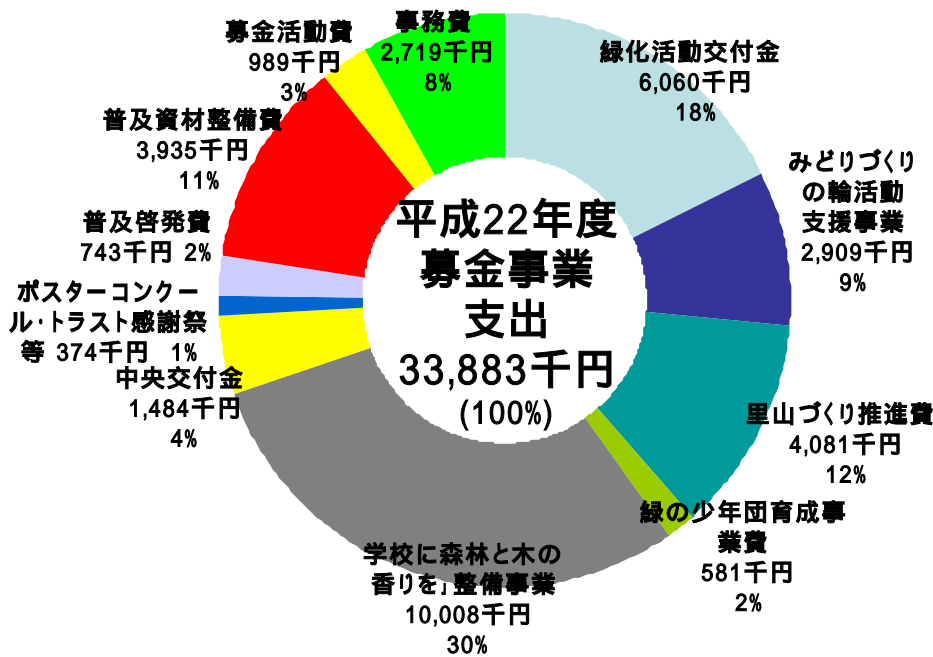
## 2 緑の募金事業の実施

### (1) 緑の募金事業支出

平成 22 年度の事業支出総額は 33,883,101 円で、次の表・グラフのとおり事業を実施した。

(千円)

【平成 22 年度科目別事業支出額】



科目	金額
緑化活動交付金	6,060
みどりづくりの輪活動支援事業	2,909
里山づくり推進	4,081
緑の少年団育成	581
学校に森林と木の香りを	10,008
中央交付金	1,484
コンクール等	351
感謝祭	23
普及啓発費	743
資材整備費	3,935
募金活動費	989
事務費	2,719
<b>合計</b>	<b>33,883</b>

### (2) 緑化推進と森林の整備

#### (ア) みどりづくりの輪活動支援事業

市街地の緑化を推進するとともに、森林整備の促進を図るため、NPO法人やボランティア、PTA等が行う緑化活動に助成をおこなった。

申請件数：11件、採択件数：11件

助成内容	平成 22 年度 2,909 千円	平成 21 年度 4,127 千円	平成 20 年度 6,323 千円
森林、里山の整備	4 箇所	6 箇所	5 箇所
学校ビオトープづくり	6 箇所	6 箇所	12 箇所
市街地緑化	1 箇所	2 箇所	6 箇所
合計	11 箇所	14 箇所	23 箇所

## (イ)「学校に森林と木の香りを」整備事業

教育施設において、森林の整備、木材の利用、緑の効用について理解を深めるとともに、木の香る快適な学習環境を提供するため助成を行った。

申請件数：11件、採択件数：8件

### 【補助先及び整備内容】

富田林立明治池中学校：多目的教室の床の木質化(150 m<sup>2</sup>)

マリア高安保育園：木製遊具(屋内・屋外各1基)、木製パーゴラ(1基)  
木製掲示板(1基)等

大阪府立富田林高等学校：ログハウス同窓会館新築(妻壁用杉材 80 m<sup>2</sup>)

岸和田市立常盤小学校：木製椅子による理科室の環境整備(45基)

大阪市立磯路小学校：図書室の床の木質化(124 m<sup>2</sup>)

箕面市立第二、第三中学校：教室の壁面の木質化(54 m<sup>2</sup>)等

豊中市立寺内小学校：特別教室の木質化(床 56 m<sup>2</sup>、壁面 10 m<sup>2</sup>、木製机・椅子 5基)

柏原市立堅上小学校：特別教室の木質化(壁面 9 m<sup>2</sup>、木製机・椅子 5基等)

## (ウ)里山づくりの推進

里山の多様な生き物の生息環境の確保や良好な里山景観をよみがえらせるため、人工林や雑木林の手入れや植樹などの保全活動をボランティアの参加を得て行なった。

・歌垣の森(能勢町) 島本の森(島本町) 車作の森(茨木市) 堀河の森(泉南市)等

また、地球温暖化防止にかかる運動の一環として、行政、府民、NPO、企業等多様な主体が協働して植樹に取り組む堺第7 - 3区での『共生の森』づくり活動や、生駒山系での『花屏風』活動に対し支援を行なった。

## (エ)緑の少年団の育成

大阪府内の「緑の少年団」の育成とその活動の充実を図るため、各地の緑の少年団が行う活動に助成した。

ア．緑の少年団 10団体 594名(平成23年3月31日現在)

内訳：団員477名、指導者117名

イ．大阪府緑の少年団連盟の実施事業(再掲)

・緑の少年団全国大会への参加

日時：平成22年7月28日(水)～7月30日(金)

場所：青森県

参加者：1団体3名(羽曳野市緑の少年団：団員2名、指導者1名)

- ・大阪府緑の少年団交流集会  
日 時：平成22年10月31日(日)  
場 所：能勢町神山地区  
参加者：4団体 113名(団員80名、指導者33名)

### (3) 緑化の活動と普及啓発

#### (ア) 募金団体による地域緑化の推進

地域や学校等の緑化を推進するため、募金額の一部を緑化推進事業等交付金として募金団体に交付し、植樹、花壇の整備、緑地の手入れ等の緑化活動を行った。

- ・交付件数 761件
- ・交付金額 6,060,101円

#### (イ) トラスト感謝祭の開催

と き：平成23年3月27日(土)  
と ころ：海遊館(海遊館ホール)

平成22年度については、3月11日発生 of 東日本大震災直後により、急遽中止致しました。

#### (ウ) 国土緑化運動ポスターコンクールの実施

児童、生徒の自然や緑への関心を高めるために、府内小・中・高等学校の協力を得て23年度用ポスターコンクールを行い、優秀作品を国土緑化推進機構が行う全国コンクールに応募した。

- ・応募者数 233名(参加者総数1,363名)
- ・トラスト協会賞22点
- ・全国コンクールに優秀作品14点を中央審査会に推薦  
国土緑化推進機構理事長賞受賞 1名  
作品は【会報68号】で紹介

#### (エ) 中央交付金

募金中央団体である(社)国土緑化推進機構が行う全国規模での緑化事業に要する経費を交付した。

- ・中央交付金 1,484,000円

#### (オ) 普及啓発活動の拡充

ア．懸垂幕をみどりの月間(4月15日~5月14日)と山に親しむ推進月間(11月)に大阪府庁舎で掲出した。

イ.その他、チラシの作成や大阪商工会議所、府友会など募金協力団体の機関誌に「緑の募金の呼びかけ」を行う記事を掲載した。

### 3 緑の募金の使途

事業区分	支出額(円)	事業内容
1.市街地の緑化と森林の整備	17,579,345	みどりづくりの輪推進費、里山づくり推進費、緑の少年団育成事業費、「学校に森林と木の香りを」整備事業
2.緑化活動交付金	6,060,101	募金団体が行う緑化活動への助成
3.募金資材購入費	3,935,255	緑の羽根等募金資材の購入
4.募金活動推進費	2,105,790	募金活動費、ポスターコンクールの実施、普及啓発費、トラスト感謝祭
5.推進事務費	2,718,610	事務費
6.中央交付金	1,484,000	(社)国土緑化推進機構
合計	33,883,101	

(注) 詳細については、財団法人大阪みどりのトラスト協会事務所で閲覧することができる。

### 4 緑化推進運営協議会の開催

緑の募金運動を展開するため、次のとおり緑化推進運営協議会を開催し、事業計画、収支予算等を審議した。

- ・第35回 平成22年5月27日(木) 平成21年度 事業報告、収支決算
- ・第36回 平成23年2月22日(火) 平成23年度 事業計画、収支予算

## ・基本財産及びトラスト基金

基本財産は 226,182,853 円(平成23年3月末現在)となっており、希少な動植物の保護などの自主運営能力を高めるために増額に努力した。

また、和泉葛城山ブナ林とこれを取り巻く森林を一体的に保全するための「ブナの森トラスト基金」及び能勢町三草山に生息するミドリシジミ類の蝶類の保護のための「ゼフィルスの森トラスト基金」の増額に努めた。

### ブナの森トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	100 件	1,214,866 円
(平成23年3月末現在 累計	3,677 件	82,056,242 円)

### ゼフィルスの森トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	49 件	173,378 円
(平成23年3月末現在 累計	1,905 件	46,551,147 円)